走り続けて

森塚良郎

横断歩道で信号待ちをしていると「日本縦断をしているのですか」と、何度も声を掛けられた。急に呼び止められて「飲んで下さい」とペットボトルを戴いたこともある。コースから全く外れた遠いところから来てくれた人もいる。ここまでくるのに何時間かかったのだろうか。そんなにしても会う時間はほんの少ししかないのに。胸が熱くなる日々が多かった。１０年以上も会っていない人に会えた。逆に参加者のなかに知っている人はいなくても、日本縦断をしていること人を見たくて駆けつけたひともある。走り仲間はもちろん、走りとは縁の薄い兄弟や親戚の人も駆けつけてくれた。

日本縦断はいつもの大会とは違う雰囲気があった。人を引き付けるものが何かがあるようだ。コースにたくさんのエイドを出してくれ、私達を出迎えてくれた。慣れぬエイドなのに大変だっただろう。いつ到着するかも判らず待っていてくれた。エイド設営を仲間とどうやるか、どこでやるか、準備するのも大変だったでしょう。雨の中は寒かったでしょう。ランナーのためにと温かいものを用意してくれました。

続けるということ。
「継続は力なり」という格言とはちょっと違う。これは努力して続けていれば積み立てられて、それがステップアップして栄光になるというイメージだろう。２０年以上、近くの室内プールで泳いでいた。コーチに教えてもらい、速くは泳ごうとは思っていないが、楽にゆっくり泳ぎたいと泳ぎ続けた。これが中々出来ない。特に背泳ぎが駄目、沈んでしまう。だから力任せに沈まないように腕で掻いてしまう。長い間この泳ぎをやっていたが、ある時突然泳げるようになった。体が浮いていて沈まない。いくらでも泳げる。コーチに教わった訳でもないし、泳ぎ方を変えた訳でもない。うれしくて丸１時間、１回も立つこともなく泳ぎ続けた。なぜ泳げるようになったか、泳ぎがどう変わったのかも知らないし判らない。ただ、長い間泳ぎたいと続けていたから出来たのだ。

日本縦断も想い続けた。無心に想い憧れていたわけではない。いつか走ろう、いつか走れると思っていた。そう特別なことでもないし、夢を追いかけて努力したとかカッコいいものでもない。みんなから「完走おめでとう」と言われる。周りはそんな評価をして頂くのだが、そんな言葉は居心地がよくない。「やったね」「やったよ」そんなくらいかな。
想い続けたことが形になる。夢は見続けなければいけない。

計画してから、あまりにも順調に日本縦断を走り終えた。いろんな方の想いや支援があればこそである。一緒に走った皆さん、応援をしてくれた方々、すべての人の顔を想い出しながらあらためて感謝しています。